

## DHSSコロキウム

# 「文学」を読む／書く方法 デジタルと世界文学

2025年12月10日 (水) 13:00~17:30

文学の歴史、特に20世紀以降のそれが示すように、文学とは自らの定義を問うことを通じて発展してきた分野である。加えて、その発展は、否応なしに現実社会の影響を受ける。例えば、現在のグローバルな文脈においては、国民文学の制度に基づく正典（カノン）を中心とした文学観が根本から問い直され、「世界文学」という視座がその一翼を担っている。また、フランコ・モレッティが「世界文学」を実現する手段として、計量的な読み解き手法としての「遠読」概念を導入した際、そうした計算機による「読み」が、われわれの「読み」のモードに搖さぶりをかけたことを思い返してみると、近年の——従来にない量と深さで自然言語データを扱うことが可能となった——大規模言語モデルの普及は、われわれの文学を読む／書く方法を大きく変える可能性があるだろう。

本コロキウムは、こうした問題意識のもと、デジタル技術と世界文学という読みの方法をめぐって思考や実践を行ってきた登壇者を招き、ざっくばらんに対話をを行う機会としたい。

## 登壇者（敬称略・順不同）

秋草 俊一郎（日本大学大学院）

「外国文学の正典形成——出版、世界文学全集、教科書」

橋本 健広（中央大学）

「大規模言語モデルの文学研究への適用可能性——影響やインタークスチュアリティは分析できるか」

ホイト ロング（シカゴ大学）

「文化的なエージェントとしての大規模言語モデル」

日比 嘉高（名古屋大学）

「TEIタグ付で小説を読み直す——夏目漱石の長篇小説の場合」

須田 永遠（名古屋大学）

「数理的に読む——直観を問い合わせるとしてのデジタル技術」

## 開催方法

名古屋大学TOIC 1Fコワーキングエリア および Zoomミーティング（ハイブリッド開催）

事前登録制（2025年12月8日(月) 18:00締切）

※ 当日の対面参加も可能ですが、席数に上限（25名程度）があるため、予約の方を優先します。

### 主催

名古屋大学デジタル人文社会科学研究推進センター  
(オーガナイザ・司会進行 須田永遠)

### 共催

「大規模言語モデル等を利用した近代文芸テキストデータ解析法の探究」（国文学研究資料館プロジェクト型共同研究）  
「SNS解析のための日本語文体論の構築」（JSPS 22K12285）  
「深層学習と大規模言語モデルによる新しいテキスト解析学：文芸時評解析と自動生成」（JSPS 24K21359）  
「文学を科学する：機械学習を用いて文脈にもとづくテキスト間の影響を調べる学際的研究」（中央大学共同研究プロジェクト）  
「大規模言語モデルを使用した文学研究のための研究資源およびオープンプラットフォームの構築」（国立情報学研究所「研究データエコシステム構築事業」ユースケース）

参加申込はこちらから  
(WEBフォーム・12月8日まで)

